渡辺泰子さんご苦労さま

調布市文化協会会長　高岡宮子

調布三曲協会会長、渡辺泰子さんは、この度14年間の調布三曲協会会長職を退かれるとのことですが、調布市文化協会として非常に残念な思いの中、声高らかに「ご苦労様」と申し上げます。

渡辺泰子さんとの出会いは六年前、私が文化協会会長に就任したその年に調布三曲協会創立40周年記念演奏会が開催されご挨拶に伺ったときでしたが、それ以前より渡辺泰子さんの偉大さ、日本における邦楽界での知名度、活躍ぶりは、前吉尾調布市長をはじめ多方面の方々より聞き及んでいました。三曲に関する作曲や編曲さらに後進の指導もさることながら、三曲協会会員の合同演奏の企画、とりわけ平成19年の調布三曲協会創立45周年記念演奏会での布田小学校合唱クラブの皆さんとのコラボレーションは、圧巻としか例えようもない素晴しいもので、長友調布市長と並び拝聴しながら、鳥肌のたつほど興奮し、感動、感銘を受けた次第です。文化協会に加盟する舞台発表部門の多くは、会派やグループごとの舞台での発表が殆どですが、この団体での合同演奏はその組織力の充実さに繋がるものであり、まさに渡辺泰子さんの会長としての人間性と、邦楽の世界を熟知、極めた証しと、後継者育成の努力とともに自然体での活動が今日の成果に繋がったものと尊敬して止まない次第でございます。

「ご苦労様」……それは箏・三絃・尺八という三曲の高貴な調べと素晴しさと、仲間の輪、日本古来の伝統文化を絶やさぬ努力を怠りなく邁進してこられたこと等、細心の配りで長年調布三曲協会会長職を勤められました渡辺泰子さんに、あらためて「ご苦労様」と申し上げます。

普段何気なく使う「ご苦労様」の言葉がこんなに意義ある言葉なのかをしみじみ思い知らされました。

調布市民文化生活向上にご尽力され、感謝しきれない感動をいただきました渡辺泰子さんに「ご苦労様」の言葉と共に厚く御礼申し上げます。

1　シルクロード

喜多郎 作曲　渡辺正子 編曲

第一箏　駒井　孝子

第二箏　中西賀代子

十七絃　田代せつ子

大胡弓　佐藤　美穂

ユーラシア大陸の東西をつなぐシルクロード。

一人の使者が歩いた道は、やがて世界中の人々が群がる交易の場として栄え、人類の文化歴史に大きく貢献しました。いにしえ人の夢と憧れ、欲と野望がうごめくシルクロードで、ある者は富を、ある者は征服を、またある者は技を、そしてある者は悟りを得ました。その道は地球の隅々まで張り巡らされ、時を超えて現在に続いています。

1980年、NHK制作のドキュメンタリー番組 NHK特集「シルクロード」が放送され音楽を喜多郎がシンセサイザーで作曲し、多くの人々に愛されました。その曲を箏尺八で編曲したものを今日は箏と胡弓お聞きいただきます。

2　山田流 竹生島　千代田検校 作曲

箏　美蔦　洋子　田村　博寿

三絃　吉川　和博

竹生島は滋賀県の琵琶湖にある島で、島の中にある宝巌寺には音楽の神弁財天が祭られています。今日演奏する「竹生島」は、謡曲からくる物語を縮約して唄われています。

“帝に仕える臣下が竹生島に参詣したおり、漁翁とあまが案内をしました。ところがあまは弁財天となり社殿に入り、漁翁は竜神となり水中に入ってしまいました。やがて社殿より弁財天が現れ、霊妙な音楽で舞を舞い、湖面より竜神が金銀珠玉を持って現れ、これを臣下に捧げ、ふたたび社殿と湖水にもどってゆきました。”という物語をうたっています。

3　尺八4重奏曲 本末

ジョン海山ネプチューン 作曲

1尺6寸尺八　細山　伶観

1尺8寸尺八　門傳　良男　　三輪　輝夫

2尺1寸尺八　佐藤　弘幸

2尺4寸尺八　橋本　　洋

第一楽章は尺八のルーツ、伝統的な本曲をもとに作曲したものです。日本の音階、自由なリズム、間を重視してあえて簡潔なものにしました。

第二楽章はヨーロッパ的ルーツ、とくに16世紀の対位法に感化されて作ったものです。

最後の楽章は趣きを添えるためにところどころ日本の陽旋法の音階が挿入されたよりリズミカルな末端が特徴です。

4 北国雪賦

長沢勝俊 作曲

第一箏　柴田　裕子

第二箏　原田眞樹子

十七絃　小林千恵子

三　絃　松本　愛子

この曲は、東北地方に古くから伝わる雪のまつり「かまくら」と「ぼんてん」に光をあて、雪とそれに深くかかわりながら生きる人々の哀歌を描いたものです。

「かまくら」は、3月15、16日に行なわれる小正月の行事。雪室に水神様を祭り、その年の豊年を祈ります。雪と光の静寂の中に、さまざまな音の幻想が広がっていきます。

「ぼんてん」は、大きな御幣を神社に奉納する勇壮な行事。雪に閉ざされた人々の、この日にかけたエネルギーの昂揚と魂の躍動が感動的に作曲されています。

5　さらし風手事　宮城道雄 作曲

箏高音　村岡　ふみ　　阿部カヨ子

箏低音　中山　淑子

昭和27年（1952年）作曲の高低2部の箏による二重奏曲です。宇治川のさらしの様子を描いた地唄「古ざらし」に現れる3種類の“さらし手”を素材とし、それを自由に変化発展させた作品です。布などを水に晒して漂白する作業はリズミカルなものであり、水の流れる音の擬音的表現とともに、器楽的素材として格好のものでありました。古典的要素を巧みにいかした変化に富んだ曲です。

6 箏独奏曲 道

渡辺泰子 作曲

箏　渡辺　泰子

まっすぐな道、まがりくねった道、太い道、細い道、坂道、茨な道、いろいろな道がありますが、言葉や文化、人種や風習の違う人たちが互いを認め、理解し合い年月をかけて一つになった偉大な道・・・

その道に願いを込めて・・・。

7　調布市歌 わが町調布

高野美代子 作曲　鈴木登美子 作詞
渡辺泰子邦楽伴奏 編曲

第一箏	渡辺　泰子	阿部カヨ子
	中西賀代子	田村　博寿
第二箏	原田眞樹子	駒井　孝子
	中山　淑子	美蔦　洋子
三　絃	村岡　ふみ	松本　愛子
	吉川　和博	
十七絃	柴田　裕子	田代せつ子
	小林千恵子	
尺　八	門傳　良男	橋本　　洋
	佐藤　弘幸	
	細山　伶観	三輪　輝夫
歌	佐藤　美穂	

調布市市歌である わが町調布 を箏三絃尺八で演奏できるよう編曲致しました。

送る言葉

調布三曲協会の会員となって30年、会長として14年本当にご苦労様でございました。調布三曲協会創立35・40・45周年記念演奏会や、北部公民館での新春邦楽コンサートや調布市文化会館たづくりでの「如月にひく」などの自主公演はとても楽しい思い出となりました。

今日はこの演奏会のために、調布市歌であります「わが町調布」の編曲をしていただきました。これは私たちのみならず調布市の宝物となりました。これから機会有るごとに演奏してまいりたいと思います。

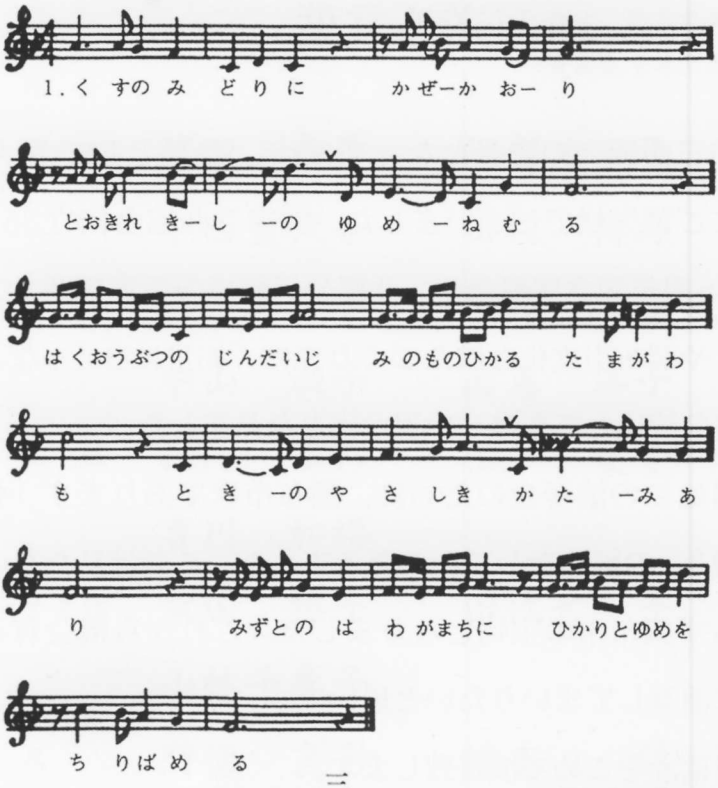
今日は心をこめて演奏致します。

渡辺さん長い間ありがとうございました。

調布三曲協会一同

わ が 町 調 布（調布市民の歌）

鈴　木　登美子　作詞
高　野　美代子　作曲



二、
百日紅の花ひらき
いきかう人も　にぎわしく
並木の路に　こだまする
わかものたちの　うた声も
町にあふれる　力あり
　風と陽は　わが町に
光と歌は　ちりばめる

三、
あらたな鐘の　鳴りわたる
あすの調布の　望みこめ
みどりと花と　太陽の
未来をえがく　町なみに
美しき日の　願いあり
　空と地は　わが町に
光と花を　ちりばめる